

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成25年6月3日(月)～14日(金)

山形/モニター世帯数: 511世帯  
有効回答数: 475世帯(回答率: 93.0%)  
秋田/モニター世帯数: 390世帯  
有効回答数: 348世帯(回答率: 89.2%)

## 消費指数

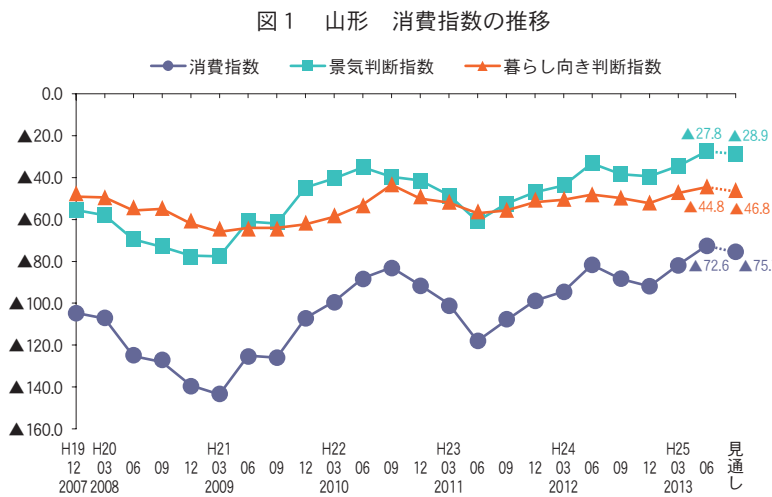
### 第28回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続で回復しながら、先行き不透明感続く～

消費指数は▲72.6(前期比9.4ポイント上昇)となり、2期連続で回復した。内訳として景気判断指数が▲27.8(前期比6.7ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲44.8(前期比2.7ポイント上昇)といずれも2期連続の回復となった。

一方、今後の見通しは、消費指数が▲75.7(今回調査比3.1ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。

以上総括すると、前回調査(平成25年3月)に引き続き、最近の円安・株高傾向を反映して2期連続で消費マインドが上昇しているが、後述のとおり、物価上昇への警戒感が依然として強く、先行きは不透明な状況と言えよう。



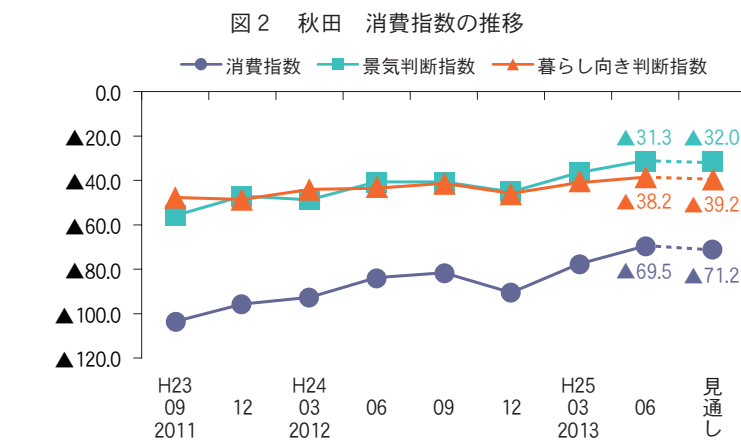
### 第8回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続の改善ながら、依然として先行きは不透明～

消費指数は▲69.5(前期比8.4ポイント上昇)と2期連続で回復した。内訳をみると、景気判断指数が▲31.3(前期比3.0ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲38.2(前期比3.0ポイント上昇)とともに2期連続で前期を上回っている。

一方、今後の見通しは、消費指数が▲71.2(今回調査比1.7ポイント下落)と小幅ながら悪化の見通しとなっている。

以上総括すると、前回調査(平成25年3月)に引き続き、最近の円安・株高傾向を映じて消費マインドは改善傾向にあるものの、後述のとおり物価上昇懸念が強まるなど、依然として先行き不透明な状況と言えよう。



#### 【指数の見方】

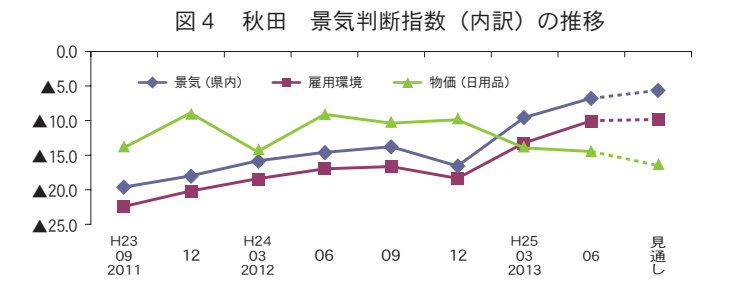
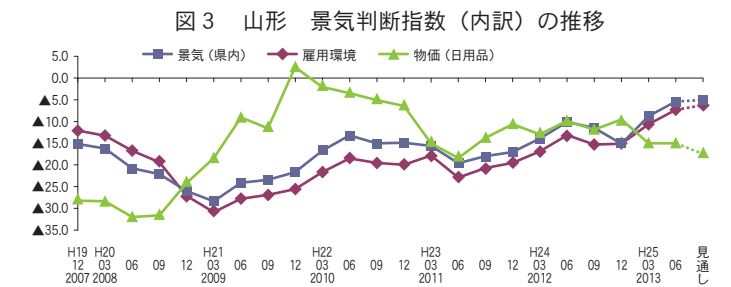
消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の指数は▲27.8(前期比6.7ポイント上昇)となり、2期連続で回復した。指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲5.4(前期比3.4ポイント上昇)、「雇用環境」が▲7.3(前期比3.3ポイント上昇)と回復し、「物価(日用品)」が▲15.1(前期比±0)と横ばいとなった。今後の見通しは、「物価(日用品)」のみ▲17.5と悪化の見込みとなり、物価上昇への警戒感が一層強まる見通し。

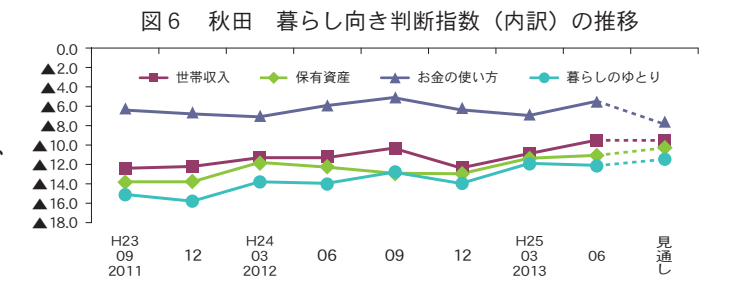
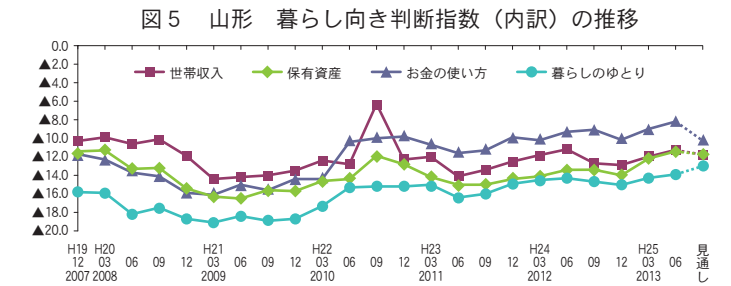
秋田の指数は▲31.3(前期比5.4ポイント上昇)と2期連続で回復した。指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」は▲6.8(前期比2.8ポイント上昇)、「雇用環境」は▲10.0(前期比3.2ポイント上昇)とともに2期連続で回復したが、「物価(日用品)」は▲14.5(前期比0.6ポイント下落)となり、下落幅は小さいものの、2期連続の悪化となった。今後の見通しは「物価(日用品)」のみ▲16.5と悪化の見込みとなり、物価上昇への不安感は一層強まる見通し。



### 暮らし向き判断

山形の指数は▲44.8(前期比2.7ポイント上昇)となり、2期連続で回復した。指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲11.3(前期比0.7ポイント上昇)、「保有資産」が▲11.4(前期比0.8ポイント上昇)、「お金の使い方」が▲8.2(前期比0.8ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲13.9(前期比0.4ポイント上昇)と、すべての指数で回復した。

秋田の指数は▲38.2(前期比3.0ポイント上昇)と2期連続で回復した。指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲9.5(前期比1.4ポイント上昇)、「保有資産」が▲11.1(前期比0.3ポイント上昇)と2期連続で回復したほか、「お金の使い方」は▲5.5(前期比1.5ポイント上昇)と3期ぶりの回復となった。



### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が430千円と前年同期比で1千円の増加と、ほぼ横ばいとなった。支出面では433千円と、前年同期比で22千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は100.7%で、前年同期比4.9ポイントの増加となった。平均消費性向が100%超(支出が可処分所得を上回る)となったのは平成18年9月の調査開始以来、初めてである。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が417千円と前年同期比で29千円の増加となった。これは世帯主および世帯員の「勤労収入」の増加に加え、「不動産収入」などで増加があり、その一方で大きな減少となった項目がなかったことが主たる要因である。支出面では374千円と前年同期に比べて10千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は89.6%となり、前年同期比9.2ポイントの減少となった。

